

<b>科目名</b>	和声学Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	岡部 富士夫		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>「授業の目的・ねらい」 和声学Ⅰで学んだ基礎をもとに和声学Ⅱでは対位法を中心に学習します。対位法は原語ではContra Punctus(Punctus Contra Punctus)の意味であり、広義には旋律対旋律という意味です。このように、旋律対旋律の形成は音楽の本質として現代まで伝承され、現代では単に作曲技法に留まらず多声部音楽を理解する上で欠くことのできない学習です。</p> <p>「授業の内容の概要」 はじめは和声学の不足部分を補い、旋律対旋律の初歩の書き方から学びます。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>「授業修了時の達成度」 二声対位法の仕組みを理解し、自由な発想で書ける事を目標とします。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①定旋律に対して適切な対旋律が書ける。 ②1対自由まで理解している。 ③カノンやフーガの基礎を理解している。</p>		
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	試験80%、平常点20%
<b>教科書</b>	「対位法」音楽之友社		
<b>参考書</b>	なし		
<b>学生への要望</b>	音楽の専門教科で特に難解であるため、復習が大切であり、実習が大切です。		
<b>オフィスタイム</b>	水曜日授業開始前、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	対位法の定義	対位法とは定旋律と規範的対旋律の協唱である事を学習する。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
2	定旋律と対旋律①	対位法と音楽の成り立ちについて。定旋律と対旋律について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
3	定旋律と対旋律②	定旋律の性格とその形成について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
4	定旋律と対旋律③	対旋律の形成と和声的関連性について。非和声音と旋律動向について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
5	定旋律と対旋律④	定旋律と対旋律との和声的関連性について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
6	定旋律と対旋律⑤	対旋律を創るにあたって留意点について。アクセント旋律動向について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
7	定旋律と対旋律⑥	和声的動向、結尾等の形成について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
8	二分音符対位法①	二声対位法を実際に創り、定旋律と対旋律の旋律動向を学習する。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
9	二分音符対位法②	二分音符対位法を実習和声で学習した四声体和声連結を参考にして。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
10	二分音符対位法③	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
11	二分音符対位法④	バスとソプラノにそれぞれ対旋律を創る実習を行う。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
12	四分音符対位法①	旋律動向において非和声音の使い方を理解し、対旋律の音楽的動向と和声との関係について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
13	四分音符対位法②	四分音符対位法の実習。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
14	四分音符対位法③	四分音符対位法の実習和声的動向において音楽的禁則を学習する。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
15	移勢対位法	移勢対位法についての説明と分析。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60

<b>科目名</b>	指揮法	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	岡部 富士夫		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	<p>「授業の目的・ねらい」 指揮法は単に指揮の仕方を学ぶだけではなく表現力や楽曲の分析、音楽に対してどう向き合うかを学ぶものです。 「授業全体の内容の概要」 音楽を正しく理解し表現する力を習得します。合唱やオーケストラの指揮の実際を学びます。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>「授業修了時の到達目標」 楽曲を分析し、正しく伝える技術を身につけます。 【履修カルテの評価項目】 ①図形を正しく振る事ができる。 ②作品を正しく解釈することができる。 ③自分の意思を明確に伝えられる。</p>		
<b>受講資格</b>	音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験80%、平常点20%
<b>教科書</b>	斉藤秀雄著「指揮法教程」音楽之友社		
<b>参考書</b>	なし		
<b>学生への要望</b>	オーケストラや合唱を指揮するということは作品をどれだけ知っているかにかかります。広い視野から音楽に向き合う姿勢が大事です。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日授業開始前、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	指揮とは何か、指揮者の必要性とは何か、について学ぶ。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
2	基礎訓練①	叩きは指揮の基本である。平均運動、加速、減速について練習する。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
3	基礎訓練②	叩きと各拍子について。図形について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
4	ウェーバー・ヴァリエーション①	ウェーバーのヴァリエーションを教材として予備、平均運動の練習。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
5	ウェーバー・ヴァリエーション②	曲中にあるフェルマータ、rit. やcrescendoの振り方についての練習、強弱やインザッツについての練習。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
6	あかるい目の歌Ⅱ	変拍子、8分の8、8分の7、8分の5などの振り方、分割、省略について。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
7	ハイドン・アレグロ①	ハイドンのアレグロを教材に打法の練習。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
8	ハイドン・アレグロ②	裏拍の指示の仕方、テンポの速い曲への対応の仕方。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
9	ベートーヴェン交響曲第1番①	ベートーヴェンの交響曲第1番の第1楽章序奏の部分を振る。スコアの見方について学ぶ。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
10	ベートーヴェン交響曲第1番②	分割の仕方、楽器の特性、音色の変化など。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
11	ベートーヴェン交響曲第1番③	休符の処理、tuttiのインザッツ。各パートへのインザッツ。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
12	ベートーヴェン交響曲第1番④	音源を聴きイメージを作る。弓、プレスと棒の関係。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
13	ベートーヴェン交響曲第1番⑤	全体を振る。批評しあう。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
14	ベートーヴェン交響曲第1番⑥	全体を振る。批評しあう。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60
15	ベートーヴェン交響曲第1番⑦	指揮法のまとめ。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。	60

<b>科目名</b>	作曲法	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	岡部 富士夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	「授業の目的・ねらい」 楽式アナリゼや和声学、対位法の学習を踏まえて作品制作に取り組みます。この事は実際の作品理解に大きく役立つものです。 「授業全体の内容の概要」 楽器論、編曲法についても学び、大きな視点から演奏の手助けとなるような音楽経験をします。		
<b>達成目標</b>	「授業修了時の到達目標」 作品の制作過程を知る事により、演奏の手助けとなるような音楽経験をします。 【履修カルテの評価項目】 ①和声学や対位法についての基礎知識がある。 ②美しいメロディーを作ることができる。 ③楽器や編曲法について理解している。		
<b>受講資格</b>	音楽科 2年	<b>成績評価 方法</b>	作品評価80%、平常点20%
<b>教科書</b>	「学生のための和声の要点」 サーベル社		
<b>参考書</b>	対位法、和声学		
<b>学生への要望</b>	作曲を専門にする事ではなく、音楽理解において必要な事柄なので積極的に取り組んで下さい。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日授業開始前、授業終了後		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	特殊和音 1 ドッペルドミナント	和声学（1年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1としてドッペルドミナントの説明。	60
2	特殊和音 2 副V度	副V度の考え方と用法。実際の例で説明。簡単な旋律を作り、副V度を使ってみる。基本的にドッペルドミナントと副V度の使用について理解をする。 ここでは1年次の全調カデンツが役に立つはずである。	60
3	特殊和音 3 準固有和音	準固有和音と借用和音について例を挙げて説明。響き、用法などを会得する。楽曲の様式感とも関わることなので効果的に活用することを学ぶ。 またここでは終始法、カデンツの原理について再度学ぶ。	60
4	特殊和音 4 ナボリのⅡドリアのⅣ	ナボリのⅡ、ドリアのⅣについて説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。	60
5	特殊和音 5 フックスのⅤラモーの五六	フックスのⅤ、ラモーの五六について説明。用法について学ぶ。実際の楽曲から例を取り理解を深める。 また実際に旋律を作り、使ってみる。	60
6	特殊和音のまとめ1	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練をする。簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。	60
7	特殊和音のまとめ2	様々な特殊和音を理解し、自由に使える訓練の2。簡単なピアノ曲を作り、応用してみる。	60
8	特殊和音のまとめ3	前2授業の作品を完成させる。提出、評価。	60
9	変奏 1	変奏は作曲学上最も大事な技術の一つである。変奏の実際について様々な例から学ぶ。 実技を通して数多くの変奏を試みる。	60
10	変奏 2	変奏の実際についての続き。 数多くの変奏を試みることによってより理解を深める。	60
11	変奏曲 1	簡単な変奏曲の作曲。テーマは自作でも既成の楽曲でも良いが、無理のない自然な変奏が出来るよう心がける。	60
12	変奏曲 2	前週の作業の続きを行う。	60
13	変奏曲 3	前週の作業の続きを行う。	60

回	項目	授業内容	
1	特殊和音 1 ドッペルドミナント	和声学（1年次）では時間の関係で進度が限られており、ここでは実際に役立つ様々な和音の説明と用法について学習する。 1としてドッペルドミナントの説明。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
14	変奏曲 4	変奏曲の完成。提出、評価。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
15	管弦楽法	管弦楽法への導入。 合奏の諸形態、響きについての説明などを行いⅣ期に行う管弦楽法への導入とする。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
16	管弦楽法、楽器論①	Ⅳ期は主に管弦楽法を学び、楽曲の編曲を行う。 楽器論①としてフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットなど木管楽器の特性について学ぶ。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
17	管弦楽法、楽器論②	楽器論②としてホルン、トランペット、トロンボーン、チューバなど金管楽器の特性について学ぶ。 素材、奏法など。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
18	管弦楽法、楽器論③	楽器論③としてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスなど弦楽器の特性について学ぶ。素材、奏法など。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
19	管弦楽法、楽器論④	ティンパニ、バスドラム、スネアドラム、その他打楽器は種類が多い。その中から主にオーケストラや吹奏楽で用いられる打楽器について学ぶ。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
20	管弦楽法、楽器論⑤	特殊楽器や打楽器などについて補足説明。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
21	管弦楽法	各楽器の組み合わせ方や管楽器と弦楽器の音量の違い、バランスなど実際の管弦楽作品を参考にしながら研究する。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
22	管弦楽法、編曲①	ソナチネなどの簡単なピアノ曲を木管アンサンブルやその他の室内楽作品としてアレンジする。 学生間でアンサンブルできる編成が望ましい。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
23	管弦楽法、編曲②	授業の中で実際に編曲する。楽器の使い方、技術面の特性など編曲しながら考える。一人ひとりの疑問に答え、添削も行う。 以下3回にわたりこの作業を続ける。作業①	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
24	編曲②	前週の続き作業② 質問を受けながら作ってゆく。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
25	編曲③	前週の続き作業③ 質問を受けながら作ってゆく。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
26	編曲④	編曲の仕上げを行い、パート譜の作成をする。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
27	編曲のまとめ	数名の作品を選び、学生同士で演奏し、それぞれの作品について聴きあい、批評しあう。 提出、評価。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
28	歌曲①	歌曲は無駄がなく、もともと技術を要する。言葉を伴うことから詩句の解釈や日本語のイントネーションを吟味し、必然性のあるメロディを作成することが要求される。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
29	歌曲②	それぞれ選んだ詩について歌曲を作成。これを前回同様2回にわたって行う。作業①	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60
30	歌曲③	作業②歌曲の仕上げ、清書して完成させる。提出、評価。	授業内容を確認し、ノートにまとめる。 60

<b>科目名</b>	声楽Ⅱ（主科）		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕          正確な発声を修得し、各原語によるオペラや芸術歌曲を、感性を生かし舞台表現できることをねらいとする。          〔授業全体の内容の概要〕          個々の能力を伸ばすため、1年次からの個人レッスン形式の授業を展開し、1年次で学んだ発声法を確実に身に付け、日本語、イタリア語、ドイツ語の正確な発音を習得し、各原語に合ったフレー징ングのポイントを解説していく。また音楽表現について、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業修了時の到達課題（到達目標）〕          ①腹式呼吸で息を流し、声を共鳴させることができたか。          ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。          ③感性を生かした歌唱表現ができただか。</p>			
<b>受講資格</b>	期大学部 音楽科 2年	<b>成績評価 方法</b>	平常点10%、演奏90%にて評価、ルーブリック評価で評価を行う。	
<b>教科書</b>	イタリア歌曲集（全音楽楽譜出版）、ドイツ歌曲集（全音楽楽譜出版）、日本歌曲集			
<b>参考書</b>	発声や歌唱に関する書物全般			
<b>学生への要望</b>	発声を主台とし歌唱法のフレージングを学んでいくので、レッスンの積み重ねが重要である。レッスンでの指摘を把握し、日々の練習、自己鍛錬に励むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	Ⅲ期ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明し、レッスン時間を決める。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	300
2	ドイツ歌曲1	ドイツ語の発音について解説し、実際にドイツ歌曲の楽曲で、ドイツ語の歌唱を行う。	ドイツ歌曲の課題曲の譜読み、歌唱練習を行う。ドイツ語の発音を覚えること。	300
3	ドイツ歌曲2	ドイツ語ディクションを行い、ドイツ語の抑揚を感じながら、ドイツ歌曲の歌唱を行う。	ドイツ歌曲の課題曲の譜読み、歌唱練習を行う。課題曲のドイツ語ディクションを行い、発音に慣れること。	300
4	ドイツ歌曲3	ドイツ語ディクションを行い、ドイツ語の抑揚を感じながら、正確な発声でドイツ歌曲の歌唱を行う。	ドイツ歌曲の課題曲の譜読み、歌唱練習を行う。課題曲のドイツ語ディクションを行い、発音に慣れること。	300
5	ドイツ歌曲4	ドイツ語ディクションを行い、ドイツ語のアクセントを生かしたフレージングを解説する。	ドイツ歌曲の課題曲の譜読み、歌唱練習を行う。課題曲のドイツ語ディクションを行い、発音に慣れること。	300
6	ドイツ歌曲5	ドイツ語ディクションを行い、ドイツ語のアクセントを生かしたフレージングを解説する。	ドイツ歌曲の課題曲を、アクセントを生かしたフレージングで歌唱練習を行う。課題曲のドイツ語ディクションを行うこと。	300
7	ドイツ歌曲6	発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法のポイント解説し、ドイツ歌曲の歌唱を行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	ドイツ歌曲の課題曲を、アクセントを生かしたフレージングで歌唱練習を行い、自分なりの音楽表現を考えること。課題曲のドイツ語ディクションを行うこと。	300
8	ドイツ歌曲7	息の流れと共鳴の関係について解説し、発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法の理解を深める。試験曲を決める。音楽表現についてのディスカッションを行う。	発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を意識し、自分なりの音楽表現を考えながら、試験曲の歌唱練習を行う。	300
9	ドイツ歌曲8	発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法の理解を深め、試験曲の音楽表現を完成させる。音楽表現についてのディスカッションを行う。	発声とドイツ語のアクセントを結びつけた歌唱法を意識しながら、試験曲の歌唱練習を行う。日本歌曲の課題曲の譜読みを行う。また試験の伴奏者を決めておくこと。	300
10	日本歌曲1	日本語における子音と母音の発音方法を解説し、美しい日本語の発音のポイントを身に付ける。	日本語の発音のポイントを意識しながら、日本歌曲の課題曲の譜読み、歌唱練習を行う。	300
11	日本歌曲2	日本語の子音と母音の発音を意識して歌う芸術日本歌曲の歌唱ポイントを解説する。	日本語の発音のポイントを意識しながら、日本歌曲の課題曲の譜読み、歌唱練習を行う。	300

回	項目	授業内容	授業内容	
1	Ⅲ期ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明し、レッスン時間を決める。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	300
12	日本歌曲3	日本語の子音と母音の発音を意識しながら、西洋発声結び付けて歌う歌唱のポイントを解説する。日本歌曲の試験曲を決める。	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲の歌唱練習を行う。伴奏合わせを行い、アンサンブルを深めていくこと。	300
13	Ⅲ期のまとめ1	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲に伴奏を付け、伴奏者と共にそれぞれの作品に対して音楽表現を深めていく。音楽表現についてのディスカッションを行う。	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲の歌唱練習を行う。伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考えること。	300
14	Ⅲ期のまとめ2	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲に伴奏を付け、伴奏者と共にそれぞれの作品に対して音楽表現を深めていく。音楽表現についてのディスカッションを行う。	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲の歌唱練習を行う。伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、音楽表現を深めていくこと。	300
15	Ⅲ期のまとめ3	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲に伴奏を付け、伴奏者と共にそれぞれの作品に対して音楽表現を完成させる。	ドイツ歌曲と日本歌曲の試験曲の歌唱練習を行う。伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、音楽表現を深めていくこと。	300
16	Ⅳ期ガイダンス	各自Ⅲ期試験におけるルーブリック評価の評価基準の反省点を把握し、それを踏まえたⅣ期の進め方を説明する。定期演奏会オーディションの伴奏者を決める。	定期演奏会オーディションの楽曲を自分で考え、譜読み、歌唱練習を行う。	300
17	定演オーディション楽曲1	定期演奏会オーディションの楽曲について、発声、フレージングについて解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、音楽表現を深めていくこと。	300
18	定演オーディション楽曲2	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏者を付けて演奏し、総合的な音楽表現について解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、音楽表現を深めていくこと。	300
19	定演オーディション楽曲3	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏者と共に音楽表現について楽曲分析を行うポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、音楽表現を深めていくこと。	300
20	定演オーディション楽曲4	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏者と共に音楽表現について最終チェックを行い完成させる。	定期演奏会オーディションの楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、音楽表現を深めていくこと。	300
21	卒業演奏試験曲1	卒業演奏に向けて、2年間で修得したイタリア・ドイツ・日本の声楽曲の音楽表現を基に楽曲を決める。伴奏者を決める。	卒業演奏に向けて、2年間で修得したイタリア・ドイツ・日本の声楽曲の中から楽曲を決めておくこと。	300
22	卒業演奏試験曲2	卒業演奏の声楽曲について、楽曲アナリゼを解説し、更に音楽表現を考察するポイントを解説する。	卒業演奏の声楽曲について、譜読み、歌唱練習を行う。	300
23	卒業演奏試験曲3	卒業演奏の声楽曲について、楽曲アナリゼを解説し、更に音楽表現を考察するポイントを解説する。	卒業演奏の声楽曲について、譜読み、歌唱練習を行う。	300
24	卒業演奏試験曲4	卒業演奏の声楽曲について、フレージングと発声を結び付けるポイントを解説する。	卒業演奏の声楽曲について、譜読み、歌唱練習を行う。	300
25	卒業演奏試験曲5	卒業演奏の声楽曲について、フレージングと発声を結び付けながら、総合的な音楽表現を解説する。	卒業演奏の声楽曲について、伴奏者を付けて歌唱練習を行う。音楽表現についても考えること。	300
26	卒業演奏試験曲6	卒業演奏の声楽曲について、伴奏者と楽曲アナリゼを行い音楽表現を考察するポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	卒業演奏の声楽曲について、伴奏者を付けて歌唱練習を行う。音楽表現についても考えること。	300
27	卒業演奏試験曲7	卒業演奏の声楽曲について、伴奏者と楽曲アナリゼを行い音楽表現を考察するポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	卒業演奏の声楽曲について、伴奏者を付けて歌唱練習を行う。音楽表現についても考えること。	300
28	卒業演奏試験曲8	卒業演奏の声楽曲について、身体表現を含めた総合的な音楽表現のポイントを解説する。音楽表現についてのディスカッションを行う。	卒業演奏の声楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、身体表現を入れながら深めていくこと。	300

回	項目	授業内容	授業内容
1	Ⅲ期ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明し、レッスン時間を決める。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。 300
29	卒業演奏試験曲9	卒業演奏の声楽曲について、身体表現を含めた総合的な音楽表現の最終チェックを行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	卒業演奏の声楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、身体表現を入れながら深めていくこと。 300
30	卒業演奏試験曲10	卒業演奏の声楽曲について伴奏者と共に、本番に向けてリハーサルを行い、音楽表現について最終チェックする。	卒業演奏の声楽曲について、伴奏合わせを行い、アンサンブルで音楽表現を考え、身体表現を入れながら深めていくこと。 300

<b>科目名</b>	声楽Ⅱ（副科）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	割谷 由美子		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。</p> <p>【授業修了時の到達課題（到達目標）】</p> <p>正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①発声法・・・腹式呼吸、共鳴の修得 ②原語発音・・・正確な日本語、イタリア語またはドイツ語の発音の修得 ③歌唱法・・・発声と言葉の発音を結びつけ、各原語に合ったフレージングを身に付ける</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①1年次で修得した発声法を活かし、各原語に合った歌唱法を実践する。 ②個々の能力を伸ばすため、個人レッスン形式での授業を実施する。</p> <p>【授業修了時の到達課題（到達目標）】</p> <p>正しい発声、各原語による歌唱法を修得し、歌唱表現ができるようにする。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①横隔膜を広げ、下腹部で支える腹式呼吸で息を流し声を共鳴させることができたか。 ②子音と母音を意識し、正確な原語発音ができただか。 ③常に頭部前方へ息を流し、言葉の発音を結びつけ歌唱しているか。</p>		
<b>受講資格</b>	音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	平常店10点 実技試験90点
<b>教科書</b>	イタリア古典歌曲集Ⅰ、Ⅱ イタリア近代歌曲 ドイツ歌曲集 日本歌曲集		
<b>参考書</b>	特になし		
<b>学生への要望</b>	レッスンでの指摘を把握し、次回には改善が見られるように、日々の練習に励むこと。		
<b>オフィスタイム</b>	火 レッスン室No.1		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明	120
2	日本歌曲・1	①発声法・・・1年次の復習 ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	120
3	日本歌曲・2	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅰ ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	120
4	日本歌曲・3	①発声法・・・共鳴法と頭声についての解説Ⅱ ②日本語ディクシオン ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	120



回	項目	授業内容	
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について確認し、スケジュールを把握する。
5	日本歌曲・4	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅰ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
6	日本歌曲・5	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅱ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
7	日本歌曲・6	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅲ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
8	日本歌曲・7	①発声・・・共鳴法と頭声の習得Ⅳ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
9	日本歌曲・8	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅴ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
10	日本歌曲・9	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅵ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
11	日本歌曲・10	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅶ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
12	日本歌曲・11	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅷ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
13	日本歌曲・12	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅸ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
14	日本歌曲・13	①発声法・・・共鳴法と頭声の習得Ⅹ ②日本語ディクショ ③日本歌曲集より指定された楽曲のアナリーゼと歌唱法の解説	授業内容について復習し、歌唱練習を行う。
15	前期まとめ	①発声法のまとめ ②日本語発音のまとめ ③日本歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ	授業内容について復習し、試験対策、歌唱練習を行い、音楽表現を深める。
16	後期ガイダンス	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法についての説明	前期試験の反省、後期レッスンの進め方、評価方法を把握する。歌唱練習を行い、音楽表現を深める。
17	各原語による歌曲・1	①発声法の総合的な習得Ⅰ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	授業内容について復習し、歌唱練習を行い、音楽表現を深める。
18	各原語による歌曲・2	①発声法の総合的な習得Ⅱ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	授業内容について復習し、歌唱練習を行い、音楽表現を深める。
19	各原語による歌曲・3	①発声法の総合的な習得Ⅲ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	授業内容について復習し、歌唱練習を行い、音楽表現を深める。
20	各原語による歌曲・4	①発声法の総合的な習得Ⅳ ②各原語によるディクショ ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	授業内容について復習し、歌唱練習を行い、音楽表現を深める。

回	項目	授業内容	
1	前期ガイダンス	レッスンの進め方、ローテーション、評価方法について説明	120
21	各原語による歌曲・5	①発声法の総合的な習得V ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
22	各原語による歌曲・6	①発声法の総合的な習得VI ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
23	各原語による歌曲・7	①発声法の総合的な習得VII ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
24	各原語による歌曲・8	①発声法の総合的な習得VIII ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
25	各原語による歌曲・9	①発声法の総合的な習得IX ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
26	各原語による歌曲・10	①発声法の総合的な習得X ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
27	各原語による歌曲・11	①発声法の総合的な習得XI ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
28	各原語による歌曲・12	①発声法の総合的な習得XII ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
29	各原語による歌曲・13	①発声法の総合的な習得のまとめ ②各原語によるディクシオン ③イタリア語、ドイツ語、日本語の歌曲による楽曲アナリーゼと歌唱法の習得	120
30	後期まとめ	①発声法のまとめ ②各原語の発音についてのまとめ ③各原語による歌曲の楽曲アナリーゼと歌唱法のまとめ	120

<b>科目名</b>	ピアノⅡ（主科）		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。 ①基礎的な技術の修得の訓練はできているか。 ②今まで学んだ演奏技術等を楽曲に生かすことはできているか。 ③ロマン派、印象派等の作品を通して古典楽曲との相違を理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%	
<b>教科書</b>	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
<b>参考書</b>	適宜提示をする。			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。授業での課題を次の授業までに解決出来るよう、よく考えながら工夫をし根気強く取り組んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅳ限、水曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	300
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	300
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	300
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	300
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	300
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。演奏表現技術を高め月曜コンサートでの発表に向け仕上げを行う。	300
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。演奏表現技術を高め月曜コンサートでの発表に向け仕上げを行う。	300
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	300
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声部音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	300
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	300

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。 事前事後学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	300
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己を振り返り更なる演奏表現の向上を目指す。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 古典派、ロマン派、近現代のアンサンブル曲の学習。 定期演奏会オーディションに向けた課題曲の学習。正確な読譜と表現法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 古典派、ロマン派、近現代のアンサンブル曲の学習。 定期演奏会オーディションに向けた課題曲の学習。楽曲分析と演奏法。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含めて練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
18	演奏技術の学習 3	古典派、ロマン派、近現代のアンサンブル曲の学習。 もみじ会演奏会での発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルを行い、より良い演奏を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含めて練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 定期演奏会オーディションに向けた課題曲の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術や表現の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 卒業研究の曲を決定し、正確な読譜を進める。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術や表現の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の正確な読譜。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	300
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の自発的な演奏表現を目指す。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにし、暗譜も確実にする。	300
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の自発的で豊かな演奏表現を目指す。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにし、暗譜も確実にする。	300
30	演奏表現 10	卒業研究発表演奏に向け、ステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通して自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	300

<b>科目名</b>	ピアノⅡ（主科）		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 4単位 必修
<b>担当教員</b>	深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派、印象派、近現代の作品にも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
<b>達成目標</b>	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。			
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%	
<b>教科書</b>	古典派、ロマン派、近現代の楽曲を進度に合わせて提示する。			
<b>参考書</b>	適宜提示をする。			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。授業での課題を次の授業までに解決出来るよう、よく考えながら工夫をし根気強く取り組んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。 事前事後学習の日安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	300
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。演奏表現技術を高め月曜コンサートでの発表に向け仕上げを行う。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。演奏表現技術を高め月曜コンサートでの発表に向け仕上げを行う。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。 事前事後学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	300
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己を振り返り更なる演奏表現の向上を目指す。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 古典派、ロマン派、近現代のアンサンブル曲の学習。 定期演奏会オーディションに向けた課題曲の学習。正確な読譜と表現法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 古典派、ロマン派、近現代のアンサンブル曲の学習。 定期演奏会オーディションに向けた課題曲の学習。楽曲分析と演奏法。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含めて練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
18	演奏技術の学習 3	古典派、ロマン派、近現代のアンサンブル曲の学習。 もみじ会演奏会での発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルを行い、より良い演奏を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含めて練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 定期演奏会オーディションに向けた課題曲の学習。楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術や表現の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 卒業研究の曲を決定し、正確な読譜を進める。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術や表現の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の正確な読譜。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかり行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	300
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の楽曲分析と演奏法。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	300
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の自発的な演奏表現を目指す。	基礎的な技術と表現力の向上とを目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにし、暗譜も確実にする。	300
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 卒業研究曲の自発的で豊かな演奏表現を目指す。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにし、暗譜も確実にする。	300
30	演奏表現 10	卒業研究発表演奏に向け、ステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通して自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	300



<b>科目名</b>	ピアノⅡ（副科）		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ピアノⅠで修得した基礎的技術や表現するためのテクニックを基として、更に高い技術の修得を目指す。 〔授業全体の内容の概略〕 ピアノという楽器の発展を知り、多様化した様式、奏法を理解する。古典派のみならず、ロマン派や近現代の作品などにも取り組み、演奏技術や表現法を身につける。</p>			
<b>達成目標</b>	〔授業修了時の達成課題〕 様々な時代の様式を理解し、演奏技術の習得とともに自己の表現が出来るようにする。			
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%	
<b>教科書</b>	古典派、ロマン派、近現代等の楽曲を進度に合わせて提示する。			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要である。			
<b>オフィスタイト</b>	水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。レッスンでの内容について消化できるように練習する。事前事後指導学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。レッスンでの内容について消化できるように練習する。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
9	基礎技術の学習9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120
10	基礎技術の学習10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるよう練習をする。	120

回	項目	授業内容		
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。 レッスンでの内容について消化できるように練習する。事前事後指導学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。	120
11	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
12	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
13	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
14	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
15	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。試験に向け、多声部の表現法を研究する。グループで試験曲を聴きあい、ディスカッションする。 ロマン派等の作品の学習。楽曲分析と演奏法。	グループディスカッションでの意見を大切に試験に向けてしっかり準備する。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。正確な読譜と表現法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。レッスンでやった内容について消化できるように練習する。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
18	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
19	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 古典派、ロマン派、近現代の楽曲の学習。楽曲分析と演奏法。 試験曲を決定し、正確な読譜を進める。	試験曲の譜読みをしっかりと行う。	120
21	演奏表現 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の正確な読譜。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。また楽語も理解し表現につなげていけるよう取り組む。レッスンの内容について消化できるように練習をする。	120
22	演奏表現 2	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。	120
23	演奏表現 3	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。	120
24	演奏表現 4	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。	120

回	項目	授業内容	
1	基礎技術の学習 1	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 ロマン派等の作品の学習。正確な読譜力を身につける。	課題として取り組む曲の譜読みを進める。レッスンでの内容について消化できるよう練習する。事前事後指導学習の目安時間は最低必要な時間であり、各自授業に対応できるよう十分な準備が必要である。
25	演奏表現 5	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。
26	演奏表現 6	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。
27	演奏表現 7	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。
28	演奏表現 8	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。
29	演奏表現 9	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。
30	演奏表現 10	練習曲を用いて、基本的な技術の習得を図る。 バッハの作品を用いて多声音楽の学習。 試験曲の楽曲分析と演奏法。グループで試験曲を聴きあい、ディスカッションする。	楽曲分析から表現について研究する。研究した内容を演奏につなげていけるよう練習する。グループディスカッションでの意見を大切に試験に向けてしっかり準備する。

<b>科目名</b>	伴奏法		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 伴奏の役割を理解し、伴奏の基礎とアンサンブルの重要性を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 歌曲の伴奏を中心として、伴奏に必要な知識や基本的な技能の習得を目指す。音楽療法の実習もふまえて選曲をしていく。簡単なコードネームによる伴奏付けも学ぶ。			
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] 伴奏の役割の大切さを理解する。コードネームによる伴奏付けを実践できるようにする。 ①授業毎の課題を消化できたか。 ②歌詞の意味を理解し伴奏の表現ができるか。 ③平易なコード伴奏ができるか。			
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	実技試験80点、平常点20点	
<b>教科書</b>	コードを覚えてピアノを弾こう①②(森本琢朗・内藤雅子共著 ドレミ楽譜出版社)			
<b>参考書</b>	日本名歌選集(右近義徳編 全音楽譜出版社)、こころの名歌集(西東社) 他			
<b>学生への要望</b>	実技を伴う授業なので課題の練習をすること。繰り返し練習することが上達に繋がるので日々の研鑽を怠らないこと。音楽のセンスを			
<b>オフィスタイト</b>	月曜日Ⅳ限、水曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	導入	授業の進め方や取り上げる課題について説明し、取り組み方について総合的な理解を深める。第2回目の授業課題を確認する。	「早春賦」の譜読みを行う。
2	中田章作曲「早春賦」①	「早春賦」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「早春賦」の練習を行う。
3	中田章作曲「早春賦」②	「早春賦」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「早春賦」の復習と「夏の思い出」の譜読みを行う。
4	中田喜直作曲「夏の思い出」①	「夏の思い出」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「夏の思い出」の練習を行う。
5	中田喜直作曲「夏の思い出」②	「夏の思い出」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「夏の思い出」の復習と「花のまち」の譜読みを行う。
6	團伊玖磨作曲「花のまち」①	「花のまち」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「花のまち」の練習を行う。
7	團伊玖磨作曲「花のまち」②	「花のまち」を取り上げ、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「花のまち」の復習と「浜辺の歌」の譜読みを行う。
8	成田為三作曲「浜辺の歌」①	「浜辺の歌」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。	「浜辺の歌」の練習を行う。
9	成田為三作曲「浜辺の歌」②	「浜辺の歌」に取り組み、詩の解釈と伴奏の役割の理解、表現の実践を行う。前回の授業を踏まえ更なる表現法を追求する。ペアを作りディスカッションや演奏発表を通して伴奏の在り方を探る。	「浜辺の歌」の復習と指定課題の練習を行う。
10	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究①	専攻実技(主科・副科)で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。
11	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究②	専攻実技(主科・副科)で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。
12	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究③	専攻実技(主科・副科)で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。
13	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究④	専攻実技(主科・副科)で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。	指定課題の練習を行う。

回	項目	授業内容	120
1	導入	授業の進め方や取り上げる課題について説明し、取り組み方について総合的な理解を深める。第2回目の授業課題を確認する。	「早春賦」の譜読みを行う。
14	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究⑤	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。グループごとに発表し互いに意見交換を行う。	指定課題の練習を行う。
15	日本歌曲とドイツ歌曲や器楽曲の伴奏研究⑥	専攻実技（主科・副科）で課題としている日本歌曲・ドイツ歌曲や器楽曲を取り上げ、伴奏の役割と表現について研究し、伴奏力を養う。第14回目の授業での反省を基に課題解決を図り、演奏発表を行う。互いに評価を行う。	指定課題の復習と「校歌」の練習を行う。
16	校歌（深尾須磨子作詞、一宮道子作曲）	郡山女子大学の「校歌」の歌詞の解釈、演奏上の表現や注意点を考える。	「校歌」の復習。コードネームについて予習をしてくる。
17	コードネームの理解と実践①	主要三和音の理解と実践。Cコード、G/G7コード、Fコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。全調のカデンツ（TSDT）の理解。	主要三和音や全調のカデンツ（TSDT）が掴めるよう繰り返し練習をする。
18	コードネームの理解と実践②	全調のカデンツ（TSDT）の確認テスト。副三和音の理解と実践。Dmコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	副三和音のコードの理解とDmのコード進行を覚え、使用できるようにする。
19	コードネームの理解と実践③	副三和音の理解と実践。Amコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	副三和音のコードの理解とAmのコード進行を覚え、使用できるようにする。
20	コードネームの理解と実践④	副三和音の理解と実践。Emコードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	副三和音のコードの理解とEmのコード進行を覚え、使用できるようにする。
21	コードネームの理解と実践⑤	短調の曲での主要三和音と属七のコード進行を理解し、伴奏付けを行う。	短調の主要三和音と属七のコード進行を身につけてくる。
22	コードネームの理解と実践⑥	借用和音の理解と実践。D7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、D7コード進行を覚え、使用できるようにする。
23	コードネームの理解と実践⑦	借用和音の理解と実践。C7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、C7コード進行を覚え、使用できるようにする。
24	コードネームの理解と実践⑧	借用和音の理解と実践。A7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、A7コード進行を覚え、使用できるようにする。
25	コードネームの理解と実践⑨	借用和音の理解と実践。E7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、E7コード進行を覚え、使用できるようにする。
26	コードネームの理解と実践⑩	借用和音の理解と実践。B7コードのコード進行を覚え、伴奏付けを行う。	借用和音を理解し、B7コード進行を覚え、使用できるようにする。
27	童謡や歌曲の演習と伴奏付け①	音楽療法の現場で役立つ曲を選曲し、簡易伴奏やコードでの伴奏付けも行う。	多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。
28	童謡や歌曲の演習と伴奏付け② 専攻実技試験曲伴奏の研究①	音楽療法の現場で役立つ曲を選曲し、簡易伴奏やコードでの伴奏付けも行う。専攻実技試験に向けた演習を行う。	多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。専攻実技（主科・副科）で取り組んでいる楽曲の伴奏の合わせも含めた練習を行う。
29	童謡や歌曲の演習と伴奏付け③ 専攻実技試験曲の研究②	音楽療法の現場で役立つ曲を選曲し、簡易伴奏やコードでの伴奏付けも行う。専攻実技試験に向けた演習を行う。	多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。専攻実技（主科・副科）で取り組んでいる楽曲の伴奏の合わせも含めた練習を行う。
30	コードでの伴奏付けの確認テストとまとめ	コードでの伴奏づけの理解度を見る確認テストを行う。また、1年間の学びを踏まえ、伴奏の在り方についてディスカッションし授業のまとめを行う。	確認テストに向け、多くの曲に取り組み、コードでの伴奏付けとアレンジに慣れるよう練習する。

<b>科目名</b>	ソルフェージュⅡ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修
<b>担当教員</b>	南川 肇, 深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 各専門の分野をより向上させる為に、音楽の基礎であるソルフェージュの能力を高める事を目標とする。 〔授業全体の内容の概略〕 単旋律、2声、4声の聴音を行い、音を聴き取り楽譜にする能力を養う。また、新曲視唱では正しい音程やリズムを理解し、歌えるようにする。年間を通じて能力別クラスで授業を行う。 グループごとにリズムを作成し、授業内で発表しあう。</p>			
<b>達成目標</b>	〔授業修了時の達成課題〕 単旋律、2声、4声の聴音、及び、新曲視唱ができるようになること。			
<b>受講資格</b>	音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	学期末テスト80点、平常点20点	
<b>教科書</b>	印刷物の配布			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	授業の時間のみでなく、日頃より楽譜を正確に読み、音をよく聴く習慣を身に付けて欲しい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜日～木曜日 12:00～12:50 No.1 音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト	120
2	ソルフェージュの基礎1	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。	120
3	ソルフェージュの基礎2	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。	120
4	ソルフェージュの基礎3	4小節の単旋律・リズムの暗記聴音を行なう。 リズム打ち・視唱練習を行う。	120
5	聴音ステップ1①	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。	120
6	聴音ステップ1②	リズム、8小節の単旋律聴音を行なう。	120
7	聴音ステップ1③	リズム、8小節のやや複雑な単旋律聴音と2声聴音を行なう。	120
8	聴音と新曲視唱1	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。	120
9	聴音と新曲視唱2	聴音と平行して、新曲視唱の訓練をする。	120
10	新曲視唱	新曲視唱の能力を高める事は聴音の力を伸ばす事につながるので、新曲視唱練習を行った後、確認テストを行う。 不合格となった者は再試を行う。	120
11	聴音ステップ2①	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	120
12	聴音ステップ2②	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	120

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト	次の授業に備え、リズム打ち、視唱練習をしておくこと。
13	聴音ステップ2③	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
14	聴音ステップ2④	リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
15	聴音ステップ2⑤	聴音テスト（リズム、単旋律、2声、4声体）と解説。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
16	聴音ステップ3①	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
17	聴音ステップ3②	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
18	聴音ステップ3③	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
19	聴音ステップ3④	やや複雑なリズム、単旋律、2声の聴音を行う。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
20	演習1	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
21	演習2	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
22	演習3	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
23	演習4	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
24	演習5	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
25	演習6	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
26	演習7	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
27	演習8	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。

回	項目	授業内容	
1	ガイダンス クラス分け聴音テスト	ソルフェージュの意義を学習し、基礎的な演習の説明をする。 能力別クラス編成の為のテスト	次の授業に備え、リズム打ち、視唱練習をしておくこと。
28	演習 9	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
29	演習 10	新曲視唱の訓練、リズム、単旋律、2声、4声体の聴音を行なう。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
30	演習 11	聴音テスト（リズムの暗記聴音、単旋律、2声、4声体）と解説。	コールユーブンゲンなどを使用して、音程感覚を身に付けるようにしておく事。またリズム打ちの練習もしておくこと。
			120
			120
			120
			120



<b>科目名</b>	合唱Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫, 深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>「授業の目的・ねらい」 音楽の基本であるアンサンブルを理解すると共に、ハーモニー感を養い、歌詞を美しく歌い、合唱の響きを追求する。 「授業全体の内容の概要」 合唱Ⅰでの基礎を踏まえ、発声を活かし、テクスチュアを理解し、より高度な合唱作品を完成させる。また、音楽表現について、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>「授業修了時の達成課題」 ①音程リズムを正確に歌う事ができているか。 ②他のパートと協調し、アンサンブルができるか。 ③自主的に音楽表現を行っているか。</p>			
<b>受講資格</b>	短期大学部 音楽科 2年	<b>成績評価 方法</b>	平常点20%、演奏80%にて評価	
<b>教科書</b>	信長貴富作曲 宮本益光作詞 二部合唱のための6つのソング「うたうたう」 音楽之友社			
<b>参考書</b>	特になし			
<b>学生への要望</b>	自分のパートにおいて音が取れていない箇所は、必ず次の時間の授業までに譜読みをしておくこと。			
<b>オフィスタイト</b>	磯部：月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室 深谷：水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	合唱音楽への導入	西洋音楽における合唱の流れを解説する。ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3声また2声のパートを決める。パートリーダーを決める。	本学科のシラバスを確認し、授業内容、スケジュール、成績評価等を確認しておくこと。
2	発声法	腹式呼吸、息の長し方、共鳴、歌唱姿勢について解説し、発声についてのポイントを理解を深める。	発声のポイントを意識し、発声練習を行うこと。
3	「空の端っこ」1	「うたうたう」より「空の端っこ」の譜読みを行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」の譜読み、歌唱練習を行う。
4	「空の端っこ」2	「うたうたう」より「空の端っこ」の譜読み。アンサンブルを行う。各パートに分かれ譜読みを行い、取れていない箇所を練習し最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」、「残したいもの」の譜読み、歌唱練習を行う。
5	「残したいもの」1	「うたうたう」より「残したいもの」の譜読みを行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「残したいもの」「雑草」の譜読み、歌唱練習を行う。
6	「残したいもの」2	「うたうたう」より「残したいもの」の譜読み。「空の端っこ」「残したいもの」のアンサンブルを行う。各パートに分かれ譜読みを行い、取れていない箇所を練習し。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」の歌唱練習を行う。
7	「雑草」1	「うたうたう」より「雑草」の譜読みを行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」の歌唱練習を行う。「うたうたう」の譜読みを行う。
8	「雑草」2	「うたうたう」より「雑草」の譜読み。「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」のアンサンブルを行う。各パートに分かれ譜読みを行い、取れていない箇所を練習し。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」「うたうたう」の歌唱練習を行う。
9	「うたうたう」1	「うたうたう」より「うたうたう」の譜読みを行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」「うたうたう」の歌唱練習を行う。「たとえば君が歌うもの」の譜読みを行う。
10	「うたうたう」2	「うたうたう」より「うたうたう」の譜読み。「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」「うたうたう」のアンサンブルを行う。各パートに分かれ譜読みを行い、取れていない箇所を練習し。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」の歌唱練習を行う。
11	「たとえば君が歌うもの」1	「うたうたう」より「たとえば君が歌うもの」の譜読みを行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」より「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」の歌唱練習を行う。「行方」の譜読みを行う。

回	項目	授業内容	
1	合唱音楽への導入	西洋音楽における合唱の流れを解説する。ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3声また2声のパートを決める。パートリーダーを決める。	本学科のシラバスを確認し、授業内容、スケジュール、成績評価等を確認しておくこと。
12	「たとえば君が歌うもの」 2	「うたうたう」より「たとえば君が歌うもの」の譜読み。「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」のアンサンブル。音楽表現についてのディスカッションを行う。	「うたうたう」全6曲について、歌唱練習を行う。
13	「行方」 1	「うたうたう」より「行方」の譜読みを行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	「うたうたう」全6曲について、歌唱練習を行う。音楽表現について考えること。
14	「行方」 2	「うたうたう」より「行方」の譜読み。「うたうたう」全6曲のアンサンブルを行う。音楽表現についてのディスカッションを行う。	「うたうたう」全6曲について、歌唱練習を行う。音楽表現について考えること。
15	「うたうたう」全6曲	全6曲についてアンサンブルのポイント解説し、全曲の音楽表現の仕上げをする。音楽表現についてのディスカッションを行う。	「うたうたう」全6曲について、歌唱練習を行う。音楽表現について考えること。
16	定期演奏会の発表練習 1	「うたうたう」全6曲について、各パートの分かれて、最終的な譜読みの確認を行い、音が取れていない箇所が無いように最終チェックを行う。	「うたうたう」全6曲について、歌唱練習を行う。音楽表現について考えること。
17	定期演奏会の発表練習 2	「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」についてアンサンブルを行い、音楽表現のポイントを解説する。	「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」について、2人組でアンサンブルを行う。
18	定期演奏会の発表練習 3	「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」「行方」のアンサンブルを行い、音楽表現のポイントを解説する。	「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」「行方」について、2人組でアンサンブルを行う。
19	定期演奏会の発表練習 4	「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」について音楽表現のポイントに着目し表現を深めていく。	「空の端っこ」「残したいもの」「雑草」について、2人組でアンサンブルを行う。
20	定期演奏会の発表練習 5	「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」「行方」について音楽表現のポイントに着目し表現を深めていく。	「うたうたう」「たとえば君が歌うもの」「行方」について、2人組でアンサンブルを行う。
21	定期演奏会の発表練習 6	「うたうたう」全6曲について、今までの学修内容を最終チェックし音楽表現を完成させる。	「うたうたう」全6曲について、今までの学修内容を最終チェックし音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行う。
22	定期演奏会の発表練習 7	「うたうたう」全6曲について、今までの学修内容を最終チェックし音楽表現を完成させる。	「うたうたう」全6曲について、今までの学修内容を最終チェックし音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行う。
23	定期演奏会の発表練習 8	「うたうたう」全6曲について、講堂大ホールにおいてリハーサルを行い、音楽表現、音響を最終確認する。	「うたうたう」全6曲について、今までの学修内容を最終チェックし音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行う。
24	世界の合唱音楽 1	古典派からロマン派の外国の合唱作品を取り上げ、日本の合唱曲との違いや音楽表現について解説する。	古典派からロマン派の外国の合唱作品について、譜読み、歌唱練習を行う。
25	クリスマス慰問コンサートに向けての練習 1	クリスマス慰問コンサートに向けて、クリスマスソングの練習を行う。各パートに分かれ、パートリーダーによる譜読みを行い。最後に全体的な合わせを行う。	クリスマスソングについて、2人組でアンサンブルを行う。
26	クリスマス慰問コンサートに向けての練習	クリスマス慰問コンサートに向けて、クリスマスソングの練習を行う。各パートに分かれ譜読みを行い、取れていない箇所を練習し。最後に全体的な合わせを行う。	クリスマスソングについて、音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行う。
27	クリスマス慰問コンサート	クリスマス慰問コンサートに出演する。医療現場においてクリスマス慰問コンサートに出演し、福祉的な観点から音楽演奏の意義を体感する。	クリスマスソングについて、音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行う。
28	合唱発表に向けての練習 1	今年度取り上げた楽曲の中から発表曲を選曲し、合唱発表に向けてグループを作りグループに分かれて練習する。	発表曲について、音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行う。
29	合唱発表に向けての練習 2	今年度学修した合唱における音楽表現のポイントを生かしながら、グループによる音楽表現の練習を行う。	発表曲について、音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行い、音楽表現を深めていく。

回	項目	授業内容		
1	合唱音楽への導入	西洋音楽における合唱の流れを解説する。ソプラノ、メゾソプラノ、アルトの3声また2声のパートを決める。パートリーダーを決める。	本学科のシラバスを確認し、授業内容、スケジュール、成績評価等を確認しておくこと。	120
30	合唱Ⅱのまとめ	グループごとに、合唱という形態で、どのように音楽表現を行っているか、その成果を発表する。	発表曲について、音楽表現を考えながら、2人組でアンサンブルを行い、音楽表現を深めていく。	120

<b>科目名</b>	合奏Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	南川 肇, 増子 仁保			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	<p>「授業の目的・ねらい」          高大連携授業として附属高校音楽科と合同で行う。前期に創立記念式典、高校音楽科の定期演奏会、後期に短大音楽科の定期演奏会に出演する。          「授業全体の内容の概要」          I、Ⅲ期に学習した基礎の上に立ち、Ⅱ、Ⅳ期は卒業式における奏楽曲の練習によってオーケストラ演奏の実際を学ぶ。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>「授業修了時の到達度」          合奏を学ぶ事により、アンサンブル能力を身につけ合奏Ⅱにスムーズに入って行けるようにする。</p> <p>①基本的楽器の奏法をマスターしているか          ②音程、リズムなど合奏に必要な基礎能力を身につけているか          ③他と協調し美しいアンサンブルが出来るか</p>			
<b>受講資格</b>	音楽科1年		<b>成績評価 方法</b>	実技試験80%、平常点20%
<b>教科書</b>	君が代、記念式典歌、祝典序曲、吾子よ、応答歌、校歌、その他の楽曲。			
<b>参考書</b>	なし			
<b>学生への要望</b>	オーケストラの一員としての責任と自覚を持って取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	火～金曜日 12:00～12:50 音楽科第1研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者は楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。	60
2	創立記念式典の練習②	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者は楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。	60
3	創立記念式典の練習③	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。	60
4	創立記念式典の練習④	創立記念式典の練習。1年生はこの間希望楽器を決めておく。	60
5	定期演奏会の演奏曲①	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者は各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。	60
6	定期演奏会の演奏曲②	今年度の附属高校音楽科の定期演奏会の演奏曲に入る。第一回は全体の音楽を知るために合奏を行い、様子を見る。1年生の初心者は各楽器の講師の下で基礎練習を開始する。	60
7	定期演奏会の演奏曲③	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれてグループワークを行う、技術に応じたブレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。	60

回	項目	授業内容		
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者は楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。	「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」の自分のパートの譜読みをして、演奏できるようにしてこること。	60
8	定期演奏会の演奏曲④	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれてグループワークを行い、技術に応じたブレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。	各自が、前回の授業の問題点を解決すべく、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
9	定期演奏会の演奏曲⑤	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれてグループワークを行い、技術に応じたブレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。	各自が、前回の授業の問題点を解決すべく、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
10	定期演奏会の演奏曲⑥	オーケストラで良い響きを得るためにはパート練習、セクション練習が不可欠である。この時間からはパート、セクションに分かれてグループワークを行う、技術に応じたブレス、弓使いなどを決める。必要に応じて個人練習。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
11	定期演奏会の演奏曲⑦	パート、セクションによるグループワーク。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかりと弾けるように反復して練習する。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
12	定期演奏会の演奏曲⑧	パート、セクションによるグループワークを行う。音楽的、技術的に難しいところは、ゆっくり練習を開始する。パートごとにしっかりと弾けるように反復して練習する。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
13	定期演奏会の演奏曲⑨	パート、セクションごとにしっかりと弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
14	定期演奏会の演奏曲⑩	パート、セクションごとにしっかりと弾けるよう練習する。ゆっくり、次第にテンポを速めてゆく。3拍子のリズム感、テンポに慣れる。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
15	定期演奏会の演奏曲⑪	ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
16	定期演奏会の演奏曲⑫	ゆっくり何度も繰り返し練習する。慣れてきたら次第にテンポを上げてゆく。1年生の初心者で進度の早い学生は随時合奏に加わる。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
17	定期演奏会の演奏曲⑬	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。演奏に関しての問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
18	定期演奏会の演奏曲⑭	合奏。これまでの練習を踏まえての全体合奏。音楽的な表現、バランスなど本番に向けての練習に入る。演奏に関しての問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。1年生は合奏組みと基礎練習組みに分かれて練習する。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてこること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60

回	項目	授業内容		
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者は楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。	「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」の自分のパートの譜読みをして、演奏できるようにしてくること。	60
19	定期演奏会の演奏曲⑮	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。演奏に関する問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に常下っていく。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
20	定期演奏会の演奏曲⑯	合奏。音楽的な仕上げの段階。指揮者の表現、意図について来れるよう細かい部分の練習。各パートごとのバランス、困難な場所の再確認など。演奏に関する問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
21	定期演奏会の演奏曲⑰	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。演奏に関する問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
22	定期演奏会の演奏曲⑱	これまでの練習の中で問題点を抽出し、必要に応じてパート、セクション練習の再確認をする。細部の技術的な部分を見直し、全奏に向けての最後の調整をする。演奏に関する問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
23	定期演奏会の演奏曲⑲	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。演奏に関する問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
24	定期演奏会の演奏曲⑳	全奏。通し練習を繰り返し本番に向けての音楽的な仕上げをする。強化練習の計画。演奏に関する問題点等を、ディスカッションし、よりよい演奏に繋げていく。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
25	定期演奏会の演奏曲㉑	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
26	定期演奏会の演奏曲㉒	本番前最後の練習。楽器などの調整。通しの練習など。強化練習での問題点を抽出し、本番での万全な演奏に向けての練習となる。	各自が、定期演奏会で演奏する曲の譜読みを行い、自分のパートをしっかりと弾けるようにしてくること。1年生の初心者は、講師から習った事を踏まえ、楽器になれていくよう練習すること。	60
27	シューベルト「ロザムンデ」他①	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
28	シューベルト「ロザムンデ」他②	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
29	シューベルト「ロザムンデ」他③	オーケストラの名曲に触れることで合奏の楽しみを体感する。表現法などの学習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
30	シューベルト「ロザムンデ」他④	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
31	シューベルト「ロザムンデ」他⑤	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
32	シューベルト「ロザムンデ」他⑥	前週のロザムンデの他、ビゼーの「アルルの女」などオーケストラの名曲を体感する。進度によって調整。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
33	ブラームス「ハンガリアンダンス」他①	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60

回	項目	授業内容		
1	創立記念式典の練習①	4月22日に行われる創立記念式典では「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」を演奏するのでその練習と準備。1年生の初心者は楽器がまだ決まらないので見学する。1年生の経験者は合奏に参加する。	「君が代」「創立記念式典歌」「吾子よ」「応答歌」「校歌」の自分のパートの譜読みをして、演奏できるようにしてくること。	60
34	ブラームス「ハンガリアンダンス」他②	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
35	ブラームス「ハンガリアンダンス」他③	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
36	ブラームス「ハンガリアンダンス」他④	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
37	ブラームス「ハンガリアンダンス」他⑤	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
38	ブラームス「ハンガリアンダンス」他⑥	沢山の作品に触れることによってオーケストラの響きを知る。いろいろな作曲家の個性、オーケストレーションなども学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
39	コラール「すべての宝にまさる宝」その他①	卒業式では奏楽としてコラール「すべての宝にまさる宝」を取り上げる。初めは弦、管のパート練習を行う。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
40	コラール「すべての宝にまさる宝」その他②	前週の続き。弦、管のグループワーク。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
41	コラール「すべての宝にまさる宝」その他③	前週の続き。弦、管のグループワーク。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
42	コラール「すべての宝にまさる宝」その他④	前週の続き。弦、管のグループワーク。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
43	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑤	前週の続き。弦、管のグループワーク。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
44	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑥	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
45	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑦	合奏。パート練習の成果を踏まえ、全奏によってアンサンブルの響きを作る。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
46	コラール「すべての宝にまさる宝」その他⑧	前週の続き。コラール以外の奏楽曲について練習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
47	オーケストラの響き①	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
48	オーケストラの響き②	ブラームス、シベリウス、ビゼーなどの管弦楽の名曲に触れ、オーケストラの楽しみを知る。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
49	オーケストラの響き③	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
50	オーケストラの響き④	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
51	オーケストラの響き⑤	前週に引き続き、オーケストラの名曲を楽しむ。弾く、聴き合う、アンサンブルの基本を学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
52	オーケストラの響き⑥	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
53	オーケストラの響き⑦	前週に引き続きオーケストラの名曲を楽しむ。アンサンブルの強化。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
54	オーケストラの響き⑧	前週に引き続きアンサンブルの楽しみ、合奏の楽しみを学ぶ。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
55	コラールその他①	再び卒業式の奏楽の練習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
56	コラールその他②	再び卒業式の奏楽の練習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
57	コラールその他③	再び卒業式の奏楽の練習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
58	コラールその他④	再び卒業式の奏楽の練習。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
59	コラールその他⑤	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60
60	コラールその他⑥	前週の続き。仕上げ。卒業式に向けての強化練習の計画を作る。	各自自分のパートが弾けるように、練習してくること。	60

<b>科目名</b>	アンサンブル		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	南川 肇			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] アンサンブルの演奏方法、コミュニケーションの取り方、練習方法などのテクニックを身につける。 [授業全体の内容の概要] 様々な編成の室内楽を、個々のレベルに合わせて演奏する。			
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] アンサンブルのテクニックを身につけ、様々な編成の室内楽の演奏法ができるようになる。 [履修カルテの評価項目] ①室内楽の演奏方法を理解できたか。 ②他の声部をよく理解し、それに合わせた演奏ができたか。 ③他の奏者に、方向性を示すことができたか。			
<b>受講資格</b>	音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	実技試験90%、平常点10%	
<b>教科書</b>	個々のレベルにあった、アンサンブル曲。			
<b>参考書</b>	無し			
<b>学生への要望</b>	室内楽の奏法を身につけ、音楽一般の演奏力を伸ばしてもらいたい。			
<b>オフィスタイム</b>	No.1音楽科研究室 火曜～金曜 12:00～12:50			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
2	基本練習①	ブレス、アインザッツの重要性と方法。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
3	基本練習②	ブレス、アインザッツの重要性と方法。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
4	基本練習③	テンポ設定と音楽表現。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
5	基本練習④	テンポ設定と音楽表現。	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
6	実践①	個々のレベルと編成にあった選曲。グループごとにディスカッションし、自分たちで演奏可能な曲を選択し、練習方針を決める。	いろいろな種類の、アンサンブルを調べ、視聴する。	120
7	実践②	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
8	実践③	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
9	実践④	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
10	実践⑤	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
11	実践⑥	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120
12	実践⑦	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任もって練習すること	120
13	実践⑧	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任もって練習すること	120
14	実践⑨	プレゼンテーションに向けての準備。	自分のパートを責任もって練習すること	120
15	発表	今までの、成果を演奏によって発表する。また、曲について、演奏する際の心構えなどをプレゼンテーションする。	自分のパートを責任もって練習すること	120
16	実践⑩	個々のレベルと編成にあった選曲。グループごとにディスカッションし、自分たちで演奏可能な曲を選択し、練習方針を決める。	自分のパートを責任もって練習すること	120
17	実践⑪	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習すること	120



回	項目	授業内容		
1	ガイダンス	アンサンブルに対する心構えや指導方針の説明	いろいろな種類のアンサンブルを調べ、視聴する。	120
18	実践⑫	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
19	実践⑬	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
20	実践⑭	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
21	実践⑮	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
22	実践⑯	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
23	実践⑰	曲の分析とその表現方法を考える。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
24	実践⑱	プレゼンテーションに向けての準備。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
25	実践⑲	今までの、成果を演奏によって発表する。また、曲について、演奏する際の心構えなどをプレゼンテーションする。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
26	実践⑳	個々のレベルと編成にあった選曲。グループごとにディスカッションし、自分たちで演奏可能な曲を選択し、練習方針を決める。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
27	実践㉑	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
28	実践㉒	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
29	実践㉓	個々のレベルと編成にあった曲によるグループワークを行う。問題点などについては、その都度ディスカッションし、問題を解決する。	自分のパートを責任もって練習してこ	120
30	発表	研究成果の発表。及び評価。	自分のパートを責任もって練習してこ	120

<b>科目名</b>	卒業研究	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	磯部 哲夫		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上を図る。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。		
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲への深い理解のもと、自己の表現を修得する。 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解し表現できているかどうか。		
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	論文40%、演奏60%、ルーブリック評価で評価を行う。
<b>教科書</b>	各自の進度の応じた教則本、曲集。		
<b>参考書</b>	作曲家や作品に関する書籍や文献。音楽史、音楽通論、世界史等に関する書籍。		
<b>学生への要望</b>	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究を進めて欲しい。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅲ限、火曜日Ⅱ限 No.3音楽科研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	演奏研究1	声楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	声楽Ⅱでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
2	演奏研究2	声楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。	声楽Ⅱでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。	声楽Ⅱでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
4	演奏研究4	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。	候補曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
5	演奏研究5	曲を決定し、正確な譜読みを進める。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
6	演奏研究6	正確な譜読みを進める。	演奏研究の候補曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定し譜読みを始める。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
9	演奏研究9	演奏曲の正確な譜読みを継続する。	授業での課題の解決を図りながら演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
10	演奏研究10	演奏曲の正確な譜読みを継続する。	授業での課題の解決を図りながら演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
11	演奏研究11	演奏曲の演奏技術について考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
12	演奏研究12	前回の授業で身につけた演奏技術を更に高め、記譜法から表現を考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
13	演奏研究13	前回の授業で身につけた演奏技術を更に高め、楽曲の内容を把握し表現法を考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
14	演奏研究14	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
15	演奏研究15	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
16	演奏研究16	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。

回	項目	授業内容	
1	演奏研究 1	声楽Ⅱの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	声楽Ⅱでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
17	演奏研究 1 7	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
18	演奏研究 1 8	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
19	演奏研究 1 9	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
20	演奏研究 2 0	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
21	演奏研究 2 1	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
22	演奏研究 2 2	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
23	作品研究 1	参考文献等の収集をし、卒業研究論文の作成に入る。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読む。
24	作品研究 2	参考文献等の収集を進め、卒業研究論文のテーマや構成を明確にしていく。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読む。
25	作品研究 3	参考文献等の収集を進め、卒業研究論文のテーマや構成を明確にしていく。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読み、論文の作成を始める。
26	作品研究 4	論文の作成を進める。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。論文の作成を進める。
27	作品研究 5	論文を完成させると共に、これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。論文の仕上げを進める。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。
29	作品研究 7	卒業研究発表会に向け演奏表現技術を向上させ、仕上げを行う。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。
30	作品研究 8	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	横溝 聡子			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上を図る。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲への深い理解のもと、自己の表現を修得する。 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解し表現できているかどうか。			
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	論文40%、演奏60%にて評価	
<b>教科書</b>	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
<b>参考書</b>	作曲家や作品に関する書籍や文献。音楽史、音楽通論、世界史等に関する書籍。			
<b>学生への要望</b>	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究を進めて欲しい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜日Ⅳ限、水曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	演奏研究 1	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
2	演奏研究 2	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
3	演奏研究 3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
4	演奏研究 4	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。	候補曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
5	演奏研究 5	曲を決定し、正確な譜読みを進める。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
6	演奏研究 6	正確な譜読みを進める。	演奏研究の候補曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
7	演奏研究 7	候補の曲の譜読みをする。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
8	演奏研究 8	演奏曲目を決定し譜読みを始める。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
9	演奏研究 9	演奏曲の正確な譜読みを継続する。	授業での課題の解決を図りながら演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
10	演奏研究 10	演奏曲の正確な譜読みを継続する。	授業での課題の解決を図りながら演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
11	演奏研究 11	演奏曲の演奏技術について考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
12	演奏研究 12	前回の授業で身につけた演奏技術を更に高め、記譜法から表現を考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
13	演奏研究 13	前回の授業で身につけた演奏技術を更に高め、楽曲の内容を把握し表現法を考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
14	演奏研究 14	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
15	演奏研究 15	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
16	演奏研究 16	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。

回	項目	授業内容	
1	演奏研究 1	ピアノ II の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	ピアノ II での課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
17	演奏研究 1 7	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
18	演奏研究 1 8	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
19	演奏研究 1 9	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
20	演奏研究 2 0	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
21	演奏研究 2 1	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
22	演奏研究 2 2	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
23	作品研究 1	参考文献等の収集をし、卒業研究論文の作成に入る。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読む。
24	作品研究 2	参考文献等の収集を進め、卒業研究論文のテーマや構成を明確にしていく。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読む。
25	作品研究 3	参考文献等の収集を進め、卒業研究論文のテーマや構成を明確にしていく。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読み、論文の作成を始める。
26	作品研究 4	論文の作成を進める。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。論文の作成を進める。
27	作品研究 5	論文を完成させると共に、これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。論文の仕上げを進める。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。
29	作品研究 7	卒業研究発表会に向け演奏表現技術を向上させ、仕上げを行う。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。
30	作品研究 8	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。

<b>科目名</b>	卒業研究		<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	深谷 悠里絵			
<b>開講期</b>	通年			
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 各専攻コースにおいて、2年間で修得した演奏、研究をまとめる。 [授業全体の内容の概要] 学生各自の専門分野の演奏技術、表現法等の向上を図る。音楽史等他の音楽の教科との関連も研究し、総合的に学ぶ。			
<b>達成目標</b>	[授業修了時の達成課題] 演奏技術はもとより、演奏する楽曲への深い理解のもと、自己の表現を修得する。 ①演奏をする楽曲の時代性、それに伴う様式について理解ができているかどうか。 ②いままで学修してきた演奏上の留意点を正しく理解し表現できているかどうか。			
<b>受講資格</b>	短大音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	論文40%、演奏60%にて評価	
<b>教科書</b>	各自の進度の応じた教則本、曲集。			
<b>参考書</b>	作曲家や作品に関する書籍や文献。音楽史、音楽通論、世界史等に関する書籍。			
<b>学生への要望</b>	実技のみではなく、他の音楽専門分野との関連性の中で研究を進めて欲しい。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜日Ⅰ限、金曜日Ⅱ限 No.1 音楽科研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	演奏研究1	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
2	演奏研究2	ピアノⅡの授業と関連し、演奏研究の分野の準備をする。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
3	演奏研究3	演奏曲目を決定する前にいくつかの候補曲をあげる。	ピアノⅡでの課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
4	演奏研究4	候補の曲を2、3曲にしぼり、譜読みを始める。	候補曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
5	演奏研究5	曲を決定し、正確な譜読みを進める。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
6	演奏研究6	正確な譜読みを進める。	演奏研究の候補曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
7	演奏研究7	候補の曲の譜読みをする。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
8	演奏研究8	演奏曲目を決定し譜読みを始める。	演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
9	演奏研究9	演奏曲の正確な譜読みを継続する。	授業での課題の解決を図りながら演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
10	演奏研究10	演奏曲の正確な譜読みを継続する。	授業での課題の解決を図りながら演奏研究の曲の譜読みを行い、作品への理解を深める。
11	演奏研究11	演奏曲の演奏技術について考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
12	演奏研究12	前回の授業で身につけた演奏技術を更に高め、記譜法から表現を考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
13	演奏研究13	前回の授業で身につけた演奏技術を更に高め、楽曲の内容を把握し表現法を考える。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
14	演奏研究14	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
15	演奏研究15	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
16	演奏研究16	楽式アナリゼ、和声学等、他の専門教科と関連させ、楽曲の内容を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。

回	項目	授業内容	
1	演奏研究 1	ピアノ II の授業と関連し、演奏研究の分野を設定する準備をする。	ピアノ II での課題となっている作品について理解を深める。作品研究を十分にを行う。
17	演奏研究 1 7	楽式アナリーゼ、和声学等、他の専門教科との関連を研究する。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
18	演奏研究 1 8	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
19	演奏研究 1 9	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
20	演奏研究 2 0	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
21	演奏研究 2 1	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
22	演奏研究 2 2	作曲者や時代背景・様式について研究し、楽曲演奏に関連させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。
23	作品研究 1	参考文献等の収集をし、卒業研究論文の作成に入る。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読む。
24	作品研究 2	参考文献等の収集を進め、卒業研究論文のテーマや構成を明確にしていく。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読む。
25	作品研究 3	参考文献等の収集を進め、卒業研究論文のテーマや構成を明確にしていく。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。文献資料をよく読み、論文の作成を始める。
26	作品研究 4	論文の作成を進める。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。論文の作成を進める。
27	作品研究 5	論文を完成させると共に、これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	演奏研究の曲を十分に練習し、確実な演奏表現技術を身につける努力をする。作品への理解を深める。論文の仕上げを進める。
28	作品研究 6	研究楽曲についての卒業論文を提出する。これまでの研究を活かし演奏表現技術を向上させる。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。
29	作品研究 7	卒業研究発表会に向け演奏表現技術を向上させ、仕上げを行う。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。
30	作品研究 8	卒業研究発表会のリハーサルを建学記念講堂で行う。	卒業研究発表会に向け更に練習を積み重ね、確実な暗譜と演奏表現技術の向上に努める。

平成31年度

<b>科目名</b>	音楽療法総合演習	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	春山 和見			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	身体に障害を有する人々と直接触れ合いながら、音楽療法の実践研修を通じて音楽療法学を習得する。			
<b>達成目標</b>	身体に障害を有する人々と直接触れ合いながら、音楽療法の実践研修を通じて音楽療法学を習得する。			
<b>受講資格</b>	音楽科2年	<b>成績評価 方法</b>	平常点20点 レポート80点	
<b>教科書</b>	なし。			
<b>参考書</b>	死の瞬間の対話 (E・キューブラー・ロス著) 涙の理由 (ファム・ティン・ソン 加藤隆子著) スピリチュアル・ケア (ワデマール・キッペス著)			
<b>学生への要望</b>	臨床現場を通しての習得			
<b>オフィスタイム</b>	授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	音楽療法士のためのオリエンテーション	活推協事務局及びボランティア委員会による、オリエンテーション	60
2	音楽療法士のためのリハビリテーション概論Ⅰ	自立支援に向けてのリハビリテーション	60
3	音楽療法士のためのリハビリテーション概論Ⅰ	自立支援に向けてのリハビリテーション	60
4	日常生活支援について	看護・介護の場面での日常生活支援について	60
5	認知症に対する理念とコミュニケーションの技法	認知症患者に対する音楽療法士の理念とコミュニケーションの技法	60
6	社会福祉士の役割	診療連携と社会福祉士の役割	60
7	社会福祉士の役割	診療連携と社会福祉士の役割	60
8	医療機関におけるヒーリングセラピー	なぜ癒やしの空間が求められるのか	60
9	癒やしと日本文化の実践	茶道の実習を通して癒やしと日本文化を考える	60
10	終末医療概論	現代の終末医療を考える	60
11	音楽療法士のためのリハビリテーション概論Ⅱ	自立支援に向けてのリハビリテーション	60
12	音楽療法士のためのリハビリテーション概論Ⅱ	自立支援に向けてのリハビリテーション	60
13	音楽療法の実際	現場での音楽療法士の実際	60
14	音楽療法士の実践的要諦	実習を通して、音楽療法士について総合的に考える	60
15	スピリチュアルケア及びグリーンケアと芸術	スピリチュアルケア及びグリーンケアと芸術 (音楽療法)	60



<b>科目名</b>	社会福祉概論	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	熊田 伸子			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	現代社会の生活問題に注目しつつ、日本の福祉制度について概要を学ぶ。			
<b>達成目標</b>	現代社会における福祉の課題が理解できている。 社会的困難を抱えている人々のニーズと福祉サービスについて理解できている。			
<b>受講資格</b>	地域創成学科 1年、音楽科 2年	<b>成績評価 方法</b>	期末試験 80% 小テスト 20%	
<b>教科書</b>	随時プリントを配布します			
<b>参考書</b>	授業の中で、紹介します			
<b>学生への要望</b>	常に新聞等に目を通し、現代社会問題に着目してください。			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日の3・4限目（創学館4階 No.6研究室）			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	オリエンテーション	授業の概略を説明する。 地域における福祉の課題について考え、グループで討議する	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
2	社会福祉の意義	具体的な事例により、現代社会における福祉制度の意義や理念について理解する	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
3	社会福祉の理念	『サイレントブア』の視聴により、地域の福祉課題に目を向ける	DVDの感想をまとめる	30
4	生活と社会保障	生活を支える仕組みとしての社会保障の全体像について解説する	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
5	家庭児童福祉	児童家庭福祉の対象となる人々の状況を学ぶ 国の制度と地域で実践されている社会福祉活動について学ぶ	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
6	障がい者の福祉	障がい者の実態を学び、ニーズを理解する 障がい者を支えるサービスの概略を解説する	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
7	高齢者の福祉①	高齢者の心身の状況を理解する 高齢者を取り巻く状況を学ぶ	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
8	高齢者の福祉②	介護保険制度の概略を解説する 認知症高齢者について学ぶ	認知症施策を調べておく	30
9	地域福祉①	コミュニティと生活課題	地域で起きている問題を調べる	30
10	地域福祉②	社会資源について解説する。自分の生活する地域の社会資源について調べる（グループワーク）	地域で起きている内容をまとめる	30
11	地域福祉③	社会資源について調べた内容をグループごとに発表をし、理解を深める	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
12	少子高齢化時代の福祉政策	現代社会の大きな課題である少子高齢社会について概観する。その中で福祉政策の調整と進展についてどのように進められてきたかを知る	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
13	社会福祉実践の場	社会福祉の実施機関、社会福祉施設の概要について学ぶ	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
14	社会福祉の専門職	社会福祉の分野で働く専門職、ボランティア、NPO法人について学ぶ	配布プリントで授業内容を確認する ノートを整理する	30
15	まとめ	半期の講義を振り返り、まとめを行う。	授業内容のポイントを整理する	30

<b>科目名</b>	生理学		<b>対象 単位数 必選</b>
<b>担当教員</b>	金子 依里香		
<b>開講期</b>	IV		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的] この科目は音楽療法士（二種）養成の教育課程科目の一つである。音楽療法士に必要となる、人体の仕組みと働きについての理解を深める。</p> <p>[内容の概要] 細胞の構造、骨格系、筋系、神経系、循環器系、消化器系、呼吸器系、生殖系および内分泌系など、人体の構造とそれらの機能について系統立てて学ぶ。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>[到達目標（授業終了時の達成課題）] 身につけた生理学の知識をいかし、音楽だけでなく科学的な視点から人々の心身の健康に働きかけることができる。</p>		
<b>受講資格</b>	短期大学部音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	授業中に課す4回のミニテスト20点および期末試験80点満点の100点満点で評価する。60点以上で単位を認定する。
<b>教科書</b>	久木野憲司 著 「解剖生理学」金原出版株式会社、京都（20・第7刷）2,700円（税別）		
<b>参考書</b>	高校で使用した生物基礎の教科書・参考書等の復習を勧める。		
<b>学生への要望</b>	授業中はしっかりノートを取り、集中して受講すること。また、事前、事後学習を行うこと。		
<b>オフィスタイト</b>	月曜日の3コマ目および水曜日の4コマ目。 担当教員研究室（家政学館2階 生理学研究室）		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	90
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。	90
2	細胞の構造と機能	細胞内に存在する、核、ミトコンドリア、ゴルジ体、などの細胞内小器官について学び、これらの細胞が集まり生物のからだ構成されていることを理解する。	90
3	骨格系	骨格系と筋系は運動器系ともいわれ、ともに身体を運動させるために働く。骨格は人体の支柱であり、筋と附着部を持つ受動的運動器である。骨の微細構造や造血機能について理解する。	90
4	筋系	骨格系と筋系は運動器系ともいわれ、ともに身体を運動させるために働く。筋は能動的運動器である。筋の微細構造を学ぶとともに、筋収縮の機序について理解する。	90
5	神経系の一般的性質	神経系は、体内における情報伝達や調節に重要な役割を持つ。神経系の分類、神経系を構成する要素について、そのつくりと働きについて学ぶ。	90
6	中枢神経系	脊椎動物の神経系は中枢神経系と末梢神経系の2つに大別される。中枢神経系は脳と脊髄からなり、神経系の中核として情報の処理や効果器への命令を出す司令塔的役割を持つ。脳と脊髄の構造を学ぶとともに、大脳などの主要な部分の機能について理解を深める。	90

回	項目	授業内容	
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。	90
7	末梢神経系	末梢神経系とは、中枢神経系と、からだの各器官や末梢部分を連絡する役割を持つ神経組織である。末梢神経系は形態学的に分類すると脳神経と脊髄神経に分かれる。また、「どんな働きをするか。」で分類すると体性神経と自律神経の2つに分けられる。ここでは脳神経と脊髄神経の分布について理解を深める。	90
8	循環器系(1)	循環器系は物質の運搬役として大切な役割を担っており、生命維持にとってとても重要な存在である。ここでは、心臓の構造と機能について学び理解を深める。	90
9	循環器系(2)	心臓から出ていく血管を動脈、心臓に入ってくる血管を静脈という。ここでは血液を含めた体液の組成を学ぶとともに脈拍、血圧についても理解を深める。	90
10	消化器系	消化器系とは、食物を摂取し、それを腸管から吸収できる程度まで分解し、吸収して血液に送る働きを行い、食物残渣の排泄をつかさどる器官の集まりをいう。ここでは、消化器器官として胃と腸について学び、主要な栄養素の消化と吸収について理解を深める。	90
11	感覚器系(1)	ヒトは接触、音、光など、受ける刺激の種類によって、異なる感覚情報が生じる。それぞれの感覚には、感覚器と感覚中枢(感覚野)が備わっており、独特の仕組みが存在している。ここでは、感覚の種類と特異性について理解を深めるとともに体性内臓感覚についても学ぶ。また、簡易的な実験として、皮膚にある感覚点の密度をスピアマン式触覚計を用いて数値化し、身体の各部位での違いを体験する。	90
12	感覚器系(2)	視覚と聴覚について学ぶ。物の形、色、位置、動きなど、外界からの情報を光(可視光)によって得るのが視覚である。目の構造・機能・視覚の質について理解を深める。また、耳には聴覚と平衡感覚の受容器がある。耳の構造を学ぶことで、聴覚と平衡感覚について理解を深める。	90
13	呼吸器系	呼吸の役割は、体内の各細胞に代謝に必要な酸素を供給し、不要となった二酸化炭素を排出することにある。呼吸器系のつくり、呼吸運動、肺の中の気体の量について理解を深める。ここでは、スパイロメーターを使用して各自の肺活量、努力性肺活量および一秒量(率)を測定し、その結果をもとに肺機能について考察する。	90
14	生殖系	女性生殖器系を中心に、卵巣の構造と機能、排卵の機序などを学ぶ。女性生殖器は女性ホルモンの影響を強く受けることから、排卵とホルモン分泌の関連性についても理解を深める。	90

回	項目	授業内容	
1	生理学総論	ガイダンスもかねて生理学の総論をはなす。音楽療法士において、この科目がなぜ必要なのかを学ぶ。	授業前は、教科書を読みながら、事前に配布する授業内容を抜粋した「予習プリント」を作成し授業に臨むこと。授業後は、「予習プリント」、ノートおよび教科書を使用し、授業内で配布する「確認プリント」を作成してミニテストに備えること。
15	内分泌系	ホルモン分泌系は内分泌と呼ばれる。ホルモンは生態を維持する上で必要不可欠なものである。ここでは、内分泌腺の分布に加えてホルモンの分泌機構とその調節を学び、理解を深める。	授業前は、教科書を読みながら、事前に配布する授業内容を抜粋した「予習プリント」を作成し授業に臨むこと。授業後は、「予習プリント」、ノートおよび教科書を使用し、授業内で配布する「確認プリント」を作成してミニテストに備えること。

<b>科目名</b>	小児保健	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	永瀬 悦子		
<b>開講期</b>	Ⅲ		
<b>授業概要</b>	人間の一生の中における小児期は絶えず発育・発達をしている。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。 現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について認識した上で、その対応策についても学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及び、その関係機関との連携についても学ぶ。 [授業の目的・ねらい] 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識を理解し、保育実践現場における保健活動の必要性を理解するとともに予防・事故に対する対応を理解する。		
<b>達成目標</b>	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2)子どもの身体的発育・発達と保健について理解する。 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4)子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。		
<b>受講資格</b>	音楽療法士資格取得希望学生	<b>成績評価 方法</b>	筆記試験80点・レポート20点
<b>教科書</b>	松田博雄・金森三枝編集『子どもの保健』中央法規 2019年 ※資料を毎回配付		
<b>参考書</b>	大澤真木子監修 小國美也子編著『子どもの保健～健康と安全』日本小児医事出版社 2016年		
<b>学生への要望</b>	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日 V時限 (16:10~17:40) 832研究室 木曜日 I時限 (8:50~10:20) 832研究室		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2)目的健康の概念と健康指標 3)現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	30
2	子どもの心身の健康と保健の意義 2	1)地域における保健活動と子どもの虐待防止 2)虐待に関する法律と保健活動学ぶ ※虐待に関わる諸統計からみる現状を理解する。更に、これらに対する母子保健の施策や体系、支援を開設する。そして保育者について求められる知識や取組みを考える。	30
3	子どもの身体的発育・発達と保健 1	1)子どもの身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子 2)発達の順序と原始反射 ※発育・発達の目安となる指標を理解し、その発育状態の評価方法をその意義を学ぶ。	30
4	子どもの身体的発育・発達と保健 2	1)子どもの生理機能の発達と保健 ※各器官の生理的機能とその成長過程について理解を深める。	30
5	子どもの身体的発育・発達と保健 3	1)新生児の特徴 2)母と子の心と身体つながり ※新生児の特徴を理解し、母子相互作用等についても学ぶ。	30
6	子どもの心身の健康状態とその把握 1	1)子どもの健康状態の観察 2)心身の不調時の早期発見 3)発育・発達の把握と健康診断 4)保護者との情報共有 ※子どもの健康状態を観察し、表情や行動、しぐさ等も大切な観察点であることを学ぶ。体調不良時に早急に対応をして受診か否かの判断を求められることを理解する。また、保護者との情報共有する大切さを学ぶ。	30

回	項目	授業内容	
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2) 目的健康の概念と健康指標 3) 現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようにつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる 30
7	感染経路と保健活動	1) 感染症と要因 2) 感染経路と対策、 3) 学校保健安全法施行規則19条について 4) 感染症の疑いのある時と発生時の対応 ※感染症の要因と感染経路・対策の基礎的知識を理解し、感染症の疑いのある子どもに対する対応を学ぶ。学校保健安全法にある感染症の種類と登園停止期間を学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省) 1～30頁をよく読む。 30
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1	1) 子どもの代表的な感染症①	課題レポートをまとめる 30
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 2	1) 子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器系、血液系)	教科書をよく読み学びを深める 30
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 3	1) 子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌系)	教科書をよく読み学びを深める 30
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 4	1) 子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉系、感覚器系)	教科書をよく読み学びを深める 30
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応 5	1) 子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)	教科書をよく読み学びを深める 30
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 6	1) 発熱、脱水、咳嗽、喘鳴の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省) 72頁、75頁をよく読む。 30
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応 7	1) 腹痛、下痢、嘔吐、便秘の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省) 73～74頁をよく読む。 30
15	子どもの疾病の予防及び適切な対応 8	けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省) 76頁、関係法規84～93頁をよく読む。 30

<b>科目名</b>	音楽療法士実習（施設介護実習、病院実習、社会福祉施設等体験実習を含む）	<b>対象 単位数 必選</b>	短期大学部 音楽科 2年 3単位 選択	
<b>担当教員</b>	南川 肇			
<b>開講期</b>	Ⅲ			
<b>授業概要</b>	[授業の目的・ねらい] 音楽療法課程科目で学んだことを、医療施設の現場において、体験、実践することで理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 医療機関において、音楽療法を踏まえた実習を行う。			
<b>達成目標</b>	[授業終了時の達成課題] 実習を体験することによって介護についての理解を深める。			
<b>受講資格</b>	音楽科2年生	<b>成績評価 方法</b>	平常点40%、レポート60%	
<b>教科書</b>	必要に応じて印刷物を配布。			
<b>参考書</b>	なし			
<b>学生への要望</b>	健康に注意して、積極的な姿勢で臨んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	火曜から金曜日、12:00～12:50 音楽科No.1 研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
1	実習オリエンテーション	実習に当たる、準備、心構え。	実習施設について、調べる	60
2	福祉施設とは	音楽療法士の主な職場である福祉施設とはなにか、理解を得る。	実習施設について、調べる	60
3	実習におけるコミュニケーション1	指示の受け方、挨拶の仕方、身だしなみ等実習における基本的なコミュニケーションスキルを実習形式で学ぶ。	授業の準備と、復習	60
4	実習におけるコミュニケーション2	日常生活におけるマナーや、会話の展開の仕方等を実習形式で学ぶ。	授業の準備と、復習	60
5	音楽の準備1	介護の相手にあった楽曲を選定し、準備をする	授業の準備と、復習	60
6	音楽の準備2	コードネームによる伴奏付け等の練習、準備をする。	授業の準備と、復習	60
7	高齢者との接し方1 [実習]	認知症への理解とコミュニケーション技法1 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
8	高齢者との接し方2 [実習]	認知症への理解とコミュニケーション技法2 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
9	高齢者との接し方3 [実習]	認知症への理解とコミュニケーション技法3 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
10	高齢者との接し方4 [実習]	認知症への理解とコミュニケーション技法4 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
11	介護体験1 [実習]	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）1 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
12	介護体験2 [実習]	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）2 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
13	介護体験3 [実習]	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）3 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
14	介護体験4 [実習]	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）4 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
15	介護体験5 [実習]	日常生活支援（患者の日常生活を支援し、その中で介護技法を学ぶ。）5 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
16	音楽を使ったセッション1 [実習]	セッションの進め方、選曲について。1 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
17	音楽を使ったセッション2 [実習]	セッションの進め方、選曲について。2 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
18	音楽を使ったセッション3 [実習]	セッションの進め方、選曲について。3 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
19	音楽を使ったセッション4 [実習]	セッションの進め方、選曲について。4 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
20	音楽を使ったセッション5 [実習]	セッションの進め方、選曲について。5 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
21	音楽を使ったセッション6 [実習]	セッションの進め方、選曲について。6 [実習]	実習の準備と、反省点の改善を行う	120
22	実習事後指導	実習において、学んだこと、これからの心構えについて。	実習先に対する、お礼の手紙等を書く	60
23	音楽療法士2種申請について、実習についてまとめ	音楽療法士2種の申請についての説明と、仕事内容をあらためて再認識する。	実習で学んだことを自分なりにまとめ、仕事に関する心構えをまとめる。	60